

秘密保全法制を考える

～国民の知る権利は守れるのか～

政府は、今通常国会に「秘密保全法案」(仮称)を提出しようとしています。この法律が制定されてしまうと、普天間基地問題や自衛隊の海外派遣問題などの軍事・防衛問題、TPPなどの外交問題、裏金の疑惑があった警察問題、さらには原子力発電所の安全性や放射線被曝の実態などの情報が「特別秘密」として、私たち国民の前から隠されてしまうおそれがあります。

本シンポジウムでは、北海道新聞記者時代に北海道警察の裏金問題を取材したジャーナリストの高田昌幸氏を講師にお招きし、取材の現場から見る秘密保全法制の危険性をご講演いただきます。

- 1 基調報告 秘密保全法制の概要と問題点
- 2 講演 「取材の現場から見る秘密保全法制の危険性」

講師 高田昌幸氏

法政大学卒業後、1986年北海道新聞社入社。本社報道本部次長、東京支社国際部編集委員、ロンドン支局長、東京支社国際部次長などを経て、2011年6月末退社。現在、フリージャーナリストとして活躍中。2004年、取材班代表として「北海道警の裏金問題取材」で新聞協会賞、JCJ大賞、菊池寛賞、新聞労連ジャーナリスト大賞を受賞。共著に講談社の『追及・北海道警「裏金」疑惑』、『日本警察と裏金 底なしの腐敗』など。最新刊に『@Fukushima』(編著、産学社)『権力vs.調査報道』(共著、旬報社)がある。

- 3 パネルディスカッション

日時 平成24年 2月18日(土) 午後1時～3時

場所 仙台弁護士会館 4階大会議室

【入場無料・申込不要】

